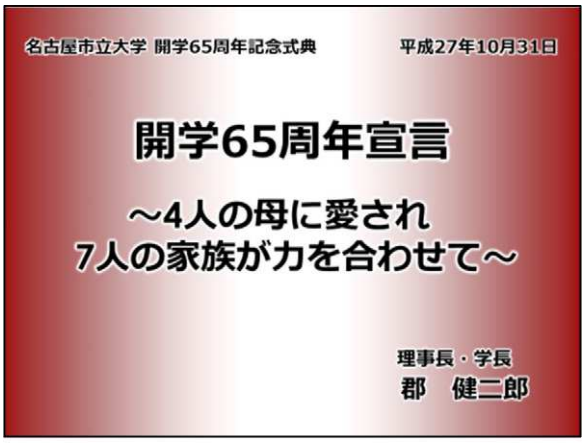
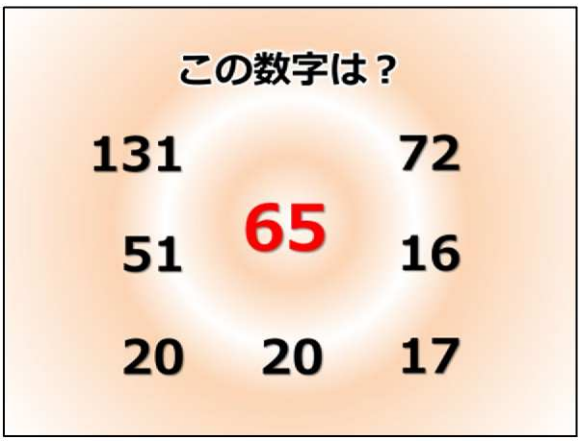
開学 65 周年記念式典　開学 65 周年宣言

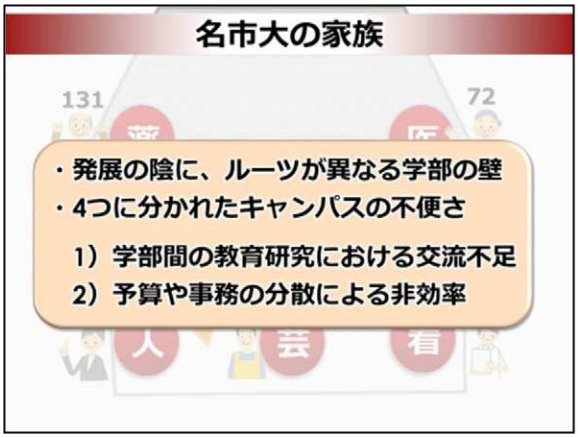


本日は、本学の開学 65 周年記念式典にご多忙の中ご臨席賜り深く感謝申し上げます。「開学 65 周年宣言」と言うには余りにもおこがましいのですが、「４人の母に愛され７人の家族が力を合わせて」と題して、本学の現状と将来への取り組みをお話させていただきます。



ところでこの数字は何だと思われますか？

本学は、131 歳の薬学部と 72 歳の医学部とから、65 年前に開学されました。その後発展の一途をたどり、51 歳の経済学部、今年成人式を迎える人文社会学部、芸術工学部、そしてまもなく成人となる看護学部、システム自然科学研究科の 7 人家族になりました。



一方、

１）発展の陰に、ルーツが異なる学部の壁があり、

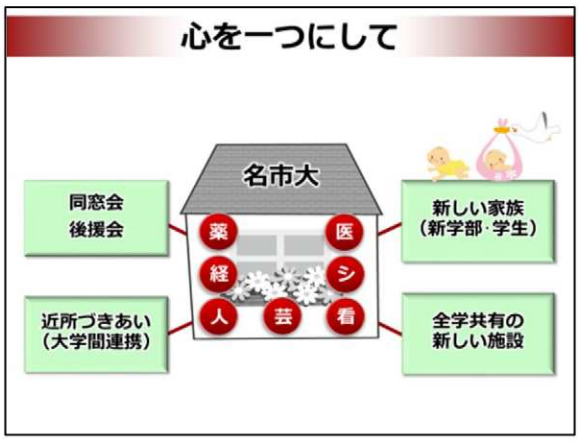
２）４つに分かれたキャンパスの不便さがあります。

そのために、

１）学部間の教育研究における交流不足

２）予算や事務の分散による非効率

の課題が本学にはあります。

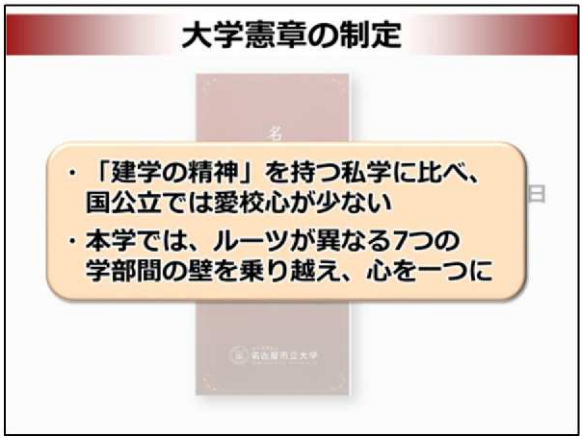


このような時だからこそ、全学が心を一つにし、同窓会や後援会と連帯し、近所づきあいとも言える大学間連携が大切です。

さらに、新しい家族である新学部や学生が増えていくことや、家族が集う全学共有の新しい施設も必要です。

世界をリードする大学を目指してまいります。開学 65 周年記念事業はこれらを達成させる重要な手段です。

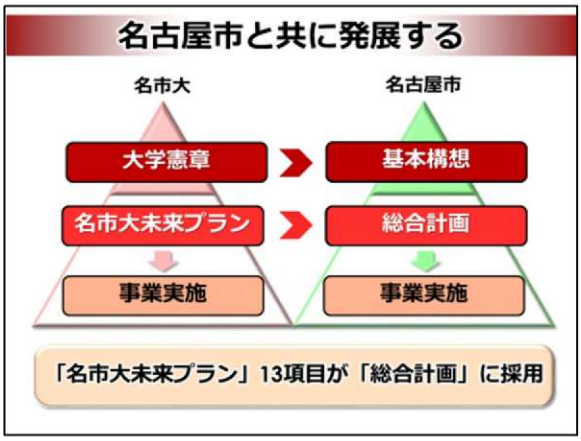
そのような思いを込めて、本学では昨年の開学記念日に「大学憲章」を制定しました。



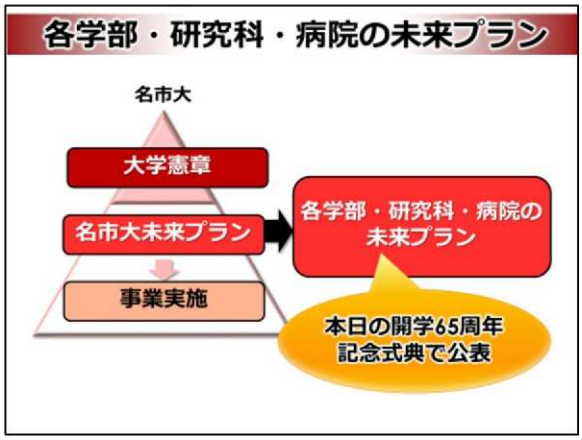
「建学の精神」を持つ私学に比べ、国公立では愛校心が少ないと言われています。そこで本学では、ルーツが異なる７つの学部が、お互いの壁を乗り越え、心を一つになることが大学憲章の理念です。

大学憲章を基に、「15 年後を見据えた名市大未来プラン」を策定しました。４つのビジョン、52 のプランからなります。（是非、詳しくは HP をご覧下さい。）

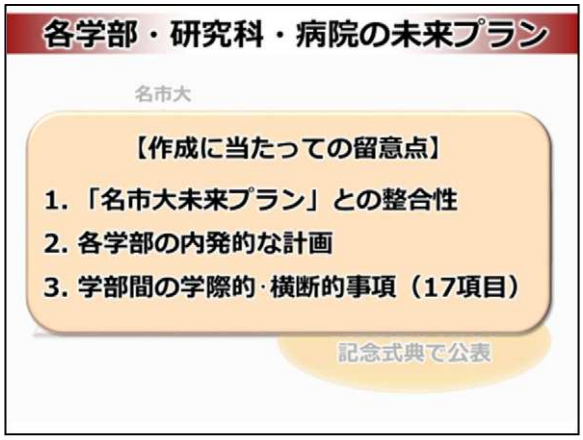
４つのビジョンとは、
１、誇りを持ち愛される名市大
２、戦略性を持って世界に飛躍する名市大
３、経営基盤が安定した名市大
４、名古屋市と共に発展する名市大
です。



「名古屋市と共に発展する」ことの好例として、「大学憲章」の制定にあたっては、名古屋市の基本構想に則り、また「名市大未来プラン」は、昨年同じ時期に策定された総合計画に則りました。このことにより、「名市大未来プラン」13 項目を総合計画に採用していただくことができました。



さらに本年、名市大未来プランのもとに、「各学部・研究科・病院の未来プラン」を策定し、本日の記念式典で各部局から公表させていただく予定です。



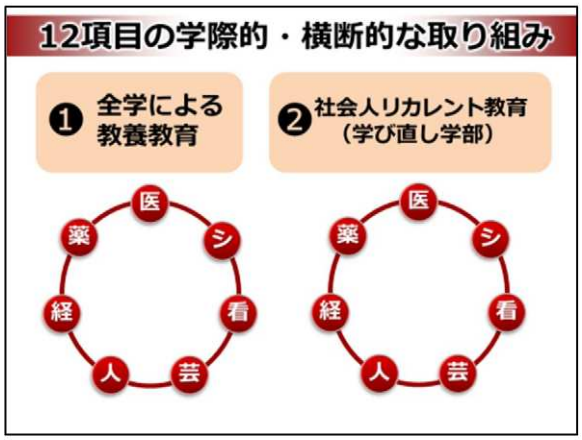
作成に当たっての留意点は

１、名市大未来プランとの整合性を重んじたこと

２、一方、各学部の内発的な計画を尊重したこと

３、学部間の学際的・横断的事項を 17 項目取り上げたこと

です。特にこのことは、本学の課題である学部間の壁を取り除くためにも重要なことです。

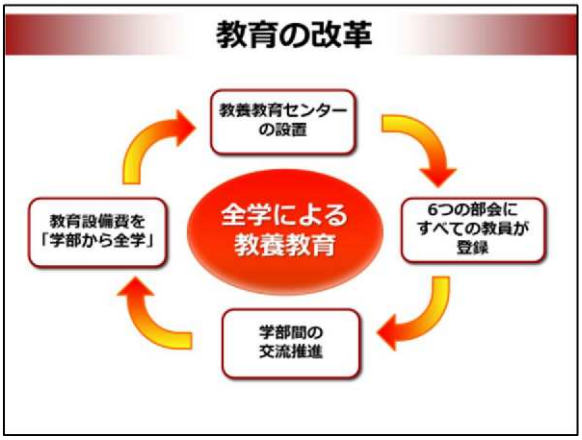


本日はこの中から、「12 項目の学際的・横断的取り組み」をお話します。先ず始めは、「教育」で、

１つ目は、全学による教養教育

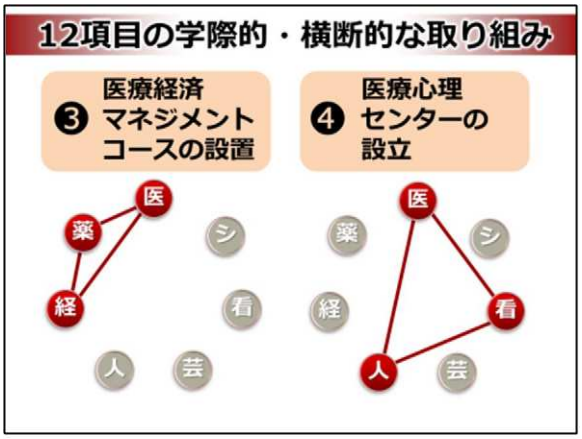
２つ目は､社会人リカレント教育（学び直し学部）

です。



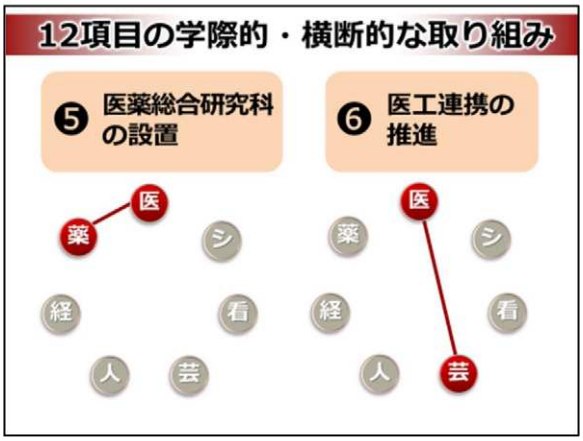
本日は時間の関係で都合上、12 項目の仔細はお話できませんが､「全学による教養教育」についてのみご説明します。

来年から、①教養教育センターを設置し、②６つの部会にすべての教員が登録することにより、③学部間の交流推進を行い、④教育設備費をこれまでの学部単位から全学の視野で計画的に執行いたします。



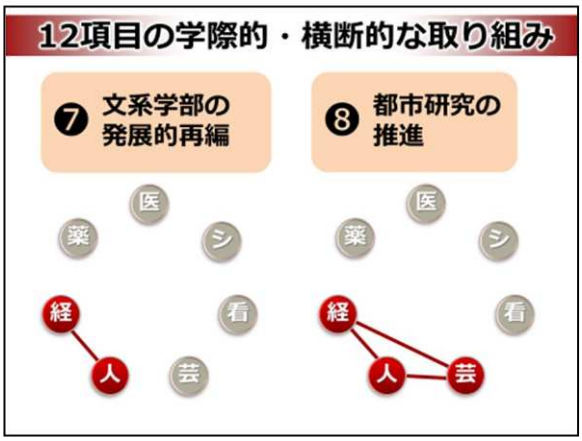
３つ目は､｢医療経済マネジメントコースの設置」です。本学の特徴を活かした医・薬・経済によるコースは全国初めてのことだと伺っています。

４つ目は、医･人社･看護による「医療心理センターの設立」です。これらの組み合わせも全国初めてだそうです。



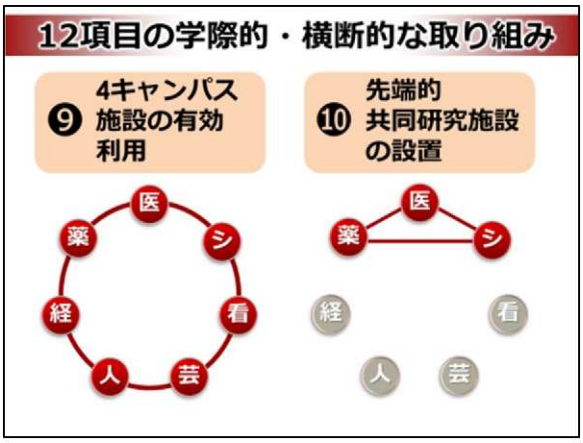
５つ目は、「医薬総合研究科の設置」です。これまで、どちらかと言うと疎遠であった医と薬が連携し、強化を計りながら教育・研究をするスタートにしたいと思います。

６つ目は、昨年から医療デザイン研究センターなどで始めた「医工連携の推進」です。



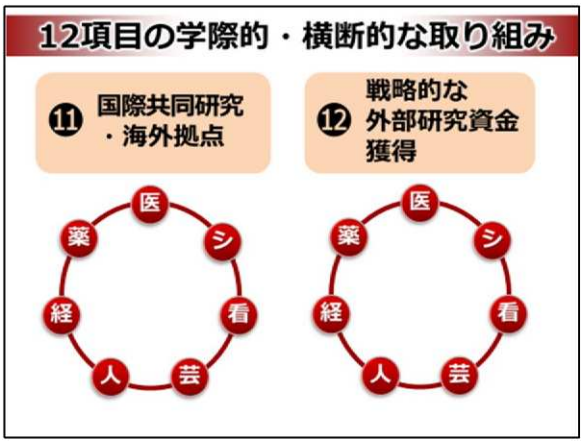
７つ目は、「文系学部の発展的再編」で、

８つ目は、その延長線上、芸工を加えた「都市研究の推進」を計画しています。このことにより、名古屋市の都市計画に寄与したいと思います。



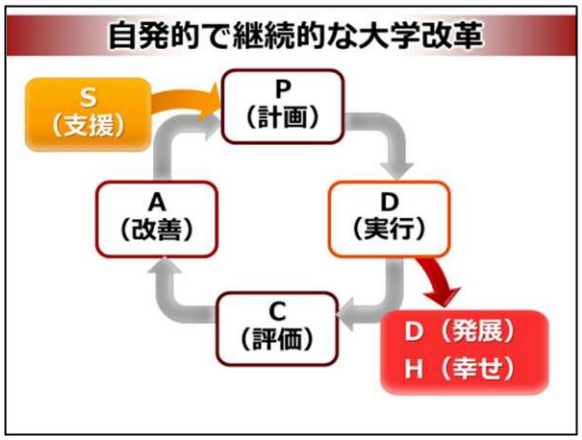
９つ目は、４つのキャンパスの不便さや非効率さを打開すべく、学内の「施設の有効利用の制度」の確立です。

１０は、医・薬・システムによる「先端的共同研究施設の設置」



１１は「国際的共同研究・海外拠点」

１２は「戦略的な外部研究資金獲得」を、全学で全力で取り組んでまいります。



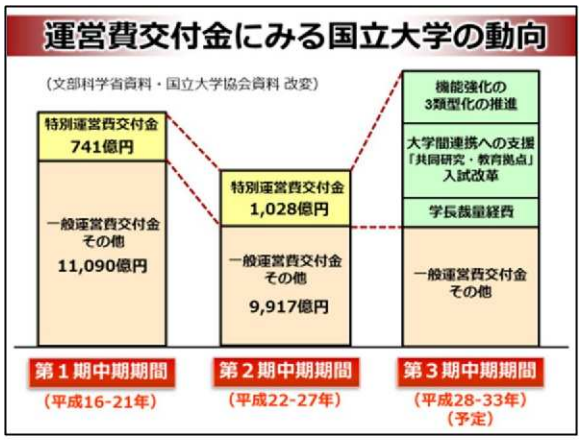
これらの未来プランは、プランだけに終わらせることがないよう、定期的な「PDCA サイクル」により、自発的で継続的な大学改革を行ってまいります。私は、大学改革による効果として、PDCA サイクルの中に、大学の発展（D）と名市大を支えていただいている市民と大学の構成員（教職員・学生・同窓生等）の幸せ（H）が生まれなければならないと思います。

また、大学の教育や研究には、どうしても費用が必要であり、皆さまからのご支援（S）を賜ればと存じます。

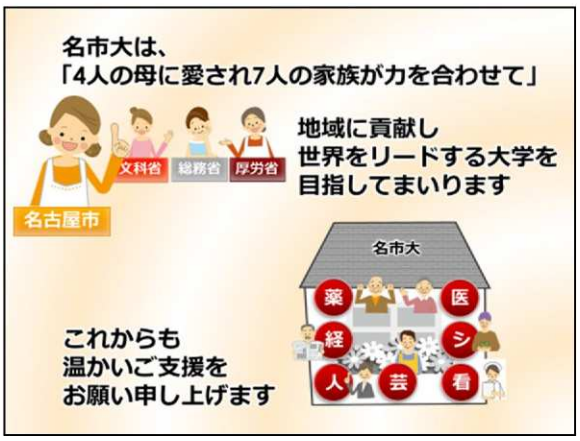
ところで、本宣言のタイトルにありますように、名市大には名古屋市（設置団体）、文科省、総務省、厚労省の「４人の母」がいると、私は思います。私たちは、４人の母を愛し愛されねばなりません。

日本の経済が高度成長期の時は、４人の母に囲まれ甘やかされるように生活してきましたが、現在では、「生みの親、育ての親は誰なのか、口は出されるが支援は減少」していることを実感しています。

一方、国立大学は、文科省ほぼ１人の母とも言え、厳しくも温かく見守られています。



そのような国立大学の動向を運営費交付金の観点から見てみますと、平成16 年から始まった第一期中期期間に比べ、現在の第二期中期期間では、約11%減額されたことから､自らが大学改革をする体力すら失せかけているとの現状があり、来年度から始まる第三期中期期間では、一般運営費交付金は同じですが、大学改革に係わる諸経費が増額されることを強く求められています。



このような学内外の現状を踏まえ、私たち名市大は、４人の母に愛され７人の家族が力を合わせて、地域に貢献し世界をリードする大学を目指してまいります。これからも温かいご支援を賜りますよう謹んでお願い申し上げます。